

**第53期・2012年度
事業計画および収支予算**

(2012年4月1日～2013年3月31日)

社団法人 出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-2-1

Tel. 03-3291-5685 Fax. 03-3233-3645

<http://www.pacc.or.jp>

2012年度事業計画

はじめに

昨年(2011年)の3月11日に起きた東日本大震災とその後の津波、さらには放射性物質の大量放出を伴う福島原子力発電所の事故は日本の北東地域を中心に大被害をもたらしました、今なお多くの人が苦しんでおられます。心よりお見舞い申し上げます。

一昨年(2010年)6月の通常総会における監事代表による指摘に端を発した本会の厳しい財政事情は、管理費、事業費を問わず様々な経費節減策とともに、年間通して安定した資金繰りのために会員の皆様には会費の一括請求等の特別な計らいにご協力を頂きました。昨年度も引き続き同様の対応を行ってまいりました。出版業界を取り巻く厳しい環境はまだまだ予断を許さない状況は続くことと存じます。収益を目的としない本会は今以上に気を引き締め健全な運営に一層の努力をして参りたいと存じます。御礼を申し上げるとともに引き続き会員社皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

この度の公益法人制度改革にあたっては、本会では公益認定等委員会への申請・認可を受け、4月1日付けで「一般社団法人」として移行する予定を目指しております。移行後の体制は各機関の権限関係が変更されますが、会員の皆さまのご理解と外務省、国際交流基金等のご協力を得ながら日本の出版文化の海外普及に努める名実ともに意義のある出版団体として行動してまいりたいと存じます。このことが、およそ60年前に本会を立ち上げた熱意ある先達者の意に沿うことであろうと存じます。

2012年度事業の方針について

移行後の一般社団法人としては、向後6年間にわたる公益目的支出計画の着実な実施が健全な財政運営とともに求められます。管理部門、事業推進両面において堅実な運営に努めたいと存じます。

外務省、国際交流基金及び本会との協議により1987年に発足した「国際ブックフェア参加プロジェクト」は本年で26年目を迎えますが、2012年度に国際交流基金と共催参加する国際ブックフェアは15件を予定しております。専門家派遣については数件を予定しますが予算との関連を慎重にみきわめたいと考えております。派遣に当たっては会場での応接や訪問先の出版事情の調査、情報収集を行うと共に、日本の出版事情について積極的に発信し国際交流に努めたいと存じます。

第63回フランクフルト・ブックフェア、第18回ソウル国際ブックフェアでは、単独出展社のお世話をしつつ、日本会場を構成し出版文化の交流促進を図る中心的役割を担います。

海外出版事情視察団の編成としては、10月のフランクフルト・ブックフェアを中心にヨーロッパ出版事情視察コース、およびビジネスコースの企画を実施したいと存じます。

広報活動では、*Practical Guide to Publishing in Japan 2012*、『フランクフルト・ブックフェア』(手引き書)を発行いたしますが、特にホームページの充実を図っていきたいと存じます。

フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方について検討していただく『フランクフルト・ブックフェア世話人会』の運営では、フランクフルト・ブックフェア事務局との連携を密にし、一層の情報収集に努め、同フェアへの出展環境の整備、さらに出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

1993年より導入していただいた納本制度によって生み出される特別賦課会費は本会の財政上、その役割が誠に大きく、本年度も引き続き多くの会員社のご理解・ご支援をぜひともお願い申し上げます。

創立60周年が目前ですが、会員各位、関係諸団体、外務省、国際交流基金、その他多くの方々のご支援のもと、日本出版界の国内外における更なる発展に微力をささげる所存でございます。

今後とも変わらぬご支援ご協力をこころよりお願い申し上げます。

2012年3月21日

社団法人 出版文化国際交流会
会長 江草 忠敬

事業計画詳細

I. 国際ブックフェアへの参加

1. 出展参加

(1) 国際交流基金との共催事業により参加する国際ブックフェア

本年度は15件の国際ブックフェアに参加予定、地域別にはアジア1件、中南米3件、中東6件、欧州5件になる予定です。

具体的な名称および会期については、後述の一覧表をご参照願います。

(2) 東京国際ブックフェア2012

実行委員会の一員として運営に関わっているが、一般社団法人認可条件である公益目的支出計画の継続実施事業として独自のブースをもって参加する予定です。

在京大使館の協力を得て2008年度から3年にわたりリトアニア、キューバ、アルゼンチンと各国出版文化の紹介を本会のブースで行ってきた中、昨年度同様国際交流基金と本会の共催活動の内容を中心に紹介したが、今年度も同様な方針をとりつつもさらに充実したものにしてまいります。

(3) ソウル国際ブックフェア2012

毎回、節目に応じた日韓関係史を意識した展示を行っておりますが、在ソウルの日本広報文化センターとの意見調整の上、今年度も日韓関係の図書をまじえた展示を行う予定です。来場者への図書販売については引き続きトーハン、教保文庫の協力をいただく予定をいたしております。国際交流基金と本会の共催ブース以外に単独出展の文藝春秋、ポプラ社、トーハン、日本聖書協会のお世話を行い、日本通りを形成いたします。

(4) 第64回フランクフルト・ブックフェア（一部国際交流基金との共催事業）

1) 昨年と同様6号館1階(Hall 6.1)に本会共同ブースと各社単独ブースによる日本会場を構成いたします。

2) 本会共同ブースには、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」(16㎡)と(社)自然科学書協会、(社)出版梓会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会の協力参加による共同展示コーナー(20㎡)を設置いたします。

3) 図書の展示にあたっては、より有益な情報が提供できるような体制を整えていくこととします。

4) 共同展示コーナーでは、1メートル幅のコーナー展示や商談スペースの提供を行います。

5) 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化をより立体的に紹介するため、予算の範囲で生け花を始めとする他の国際文化団体との連携を図る予定です。

(5) ライプチヒ国際ブックデザイン展

「第46回・造本装幀コンクール」の受賞作品を、(社)日本書籍出版協会と共同出展いたします。

2. 国際ブックフェア関連事業

(1) フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方についての諮問委員会である「フランクフルト・ブックフェア世話人会」を今期も開催いたします。

(2) 海外の出版事情視察団の編成

- 1) 「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
- 2) 「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」

II. 広報活動

1. 『Practical Guide to Publishing in Japan 2012』の発行

英文版・日本出版界の実用ガイド

A5判変型、本文61頁、発行：5,000部

独立行政法人国際交流基金との共同出版、今後は隔年の発行となります。

内容は、日本出版界の概要と輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー図書の紹介等を含む最近の動向、翻訳出版権・図書の売り込みや購入等の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な出版関連機関、団体の住所、在外公館、国際交流基金海外事務所一覧等、外国の出版関係者のみならず日本の出版物に関心を持つ一般の人にも有用な情報を英文でコンパクトに紹介する冊子であります。

この冊子は、本会が参加する各国の国際ブックフェアで配布する(各100～500部)。在外公館、国際交流基金海外事務所での現地配布資料、来日外国出版人への啓蒙資料としても活用されます。

2. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5判、発行：100部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめる小冊子を作成いたします。内容を充実させながら活用しやすく簡易製本の形にして会員社、視察団参加者にも配布いたします。

3. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社を始め、オンライン書店、主要国際ブックフェアホームページへのリンク等の基本情報とともに、国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行っていきたい。

内容充実を図る一環として、1.の『Practical Guide to Publishing in Japan 2012』より実用情報を転載し、日本の出版文化に関心を寄せる海外の読者に便宜を図ります。

III. 関連活動

1. 納本制度の継続実施

ご協力いただいていない版元さんにはご協力依頼を改めてお願いし、既にご協力いただいている版元さんには更に上積みのご協力を引き続きお願い致します。個々の交渉させていただく予定です。

2. その他必要な関連事業の実施

2012 年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
1. 第38回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4. 17～5. 7	
2. 第25回テヘラン国際ブックフェア	5. 2～12	
3. 第18回ブックワールド2012プラハ	5. 17～20	
4. 第18回ソウル国際ブックフェア	6. 20～24	事務局派遣
5. 第19回東京国際ブックフェア	7. 5～8	
6. 第17回リマ国際ブックフェア	7. 18～31	
7. 第20回サンパウロ国際図書ビエンナーレ	8. 9～19	
8. 第64回フランクフルト・ブックフェア	10. 10～14	事務局派遣
9. 第57回ベオグラード国際ブックフェア	10.	
10. 第37回クウェートブックフェア	10.	
11. 第14回国際知的図書展non/fiction	11. 28～12. 2	
12. 第23回ドーハ国際ブックフェア (カタル)	12. 5～12. 15	
13. 第14回ビリニユス国際ブックフェア (リトニア)	H25. 2.	
14. 第18回マスカット・インターナショナル・ブックフェア	H25. 2. ～3.	
15. 第23回アブダビ国際ブックフェア	H25. 3. 20～25	
16. 第 31 回リャド国際ブックフェア	H25. 3.	

[注] 5. 第 19 回東京国際ブックフェア以外は国際交流基金との共催事業

第53期2012年度(平成24年度)収支予算

自2012年4月1日 至2013年3月31日

(単位:円)

項目	科目	2012年度収支予算	2011年度収支予算	増減
前期繰越		18,000,000	11,000,000	7,000,000
1 事業活動収入				
入会金収入		0	0	0
会費収入	会費収入	17,120,000	18,620,000	-1,500,000
	特別会費収入	690,000	780,000	-90,000
	特別賦課会費収入	7,300,000	7,800,000	-500,000
事業収入	フランクフルト・ブックフェア参加収入	10,500,000	16,000,000	-5,500,000
	ソウル・ブックフェア参加収入	900,000	1,200,000	-300,000
	国際交流基金預託金(立替分)	14,000,000	14,000,000	0
補助金等収入	受取利息	2,000	2,000	0
	雑収入	60,000	60,000	0
	その他収入	200,000	1,850,000	-1,650,000
当期収入合計		50,772,000	60,312,000	-9,540,000
前期繰越+当期収入合計		68,772,000	71,312,000	-2,540,000
2 事業活動支出				
事業費支出	フランクフルト・ブックフェア参加費	8,600,000	14,500,000	-5,900,000
	ソウル・ブックフェア参加費	930,000	1,200,000	-270,000
	国際ブックフェア参加費	500,000	2,050,000	-1,550,000
	国際交流基金預託金(立替分)	14,000,000	14,000,000	0
	目録発行費	300,000	0	300,000
	東京国際ブックフェア参加費	450,000	450,000	0
	調査費	950,000	900,000	50,000
管理費支出	給与手当	11,140,000	11,110,500	29,500
	福利厚生費	2,520,000	2,400,000	120,000
	旅費交通費	750,000	900,000	-150,000
	通信運搬費	1,200,000	1,080,000	120,000
	印刷費	210,000	210,000	0
	会議費	130,000	220,000	-90,000
	慶弔費	30,000	10,000	20,000
	保険料	10,000	10,000	0
	消耗品費	450,000	180,000	270,000
	雑費	120,000	360,000	-240,000
不動産関係	賃借料	1,800,000	1,800,000	0
	水道光熱費	350,000	240,000	110,000
税金関係	租税公課	80,000	70,000	10,000
	その他支出	9,490,000	2,300,000	7,190,000
当期支出合計		54,010,000	53,990,500	-30,500
次期繰越額		14,762,000	17,321,500	-2,509,500

(注)1 借入金限度額 0円

(注)2 債務負担額 0円